

近畿中部防衛局広報誌

KINKI CHUBU



防衛省
MINISTRY OF
DEFENSE



近畿中部防衛局管内図
青色部分（東海支局管内）
2府7県の防衛に関する情報誌

2023 冬



メタセコイア並木（滋賀県高島市マキノ町）写真提供：（公社）びわこビジターズビューロー



令和5年版防衛白書の説明

近畿中部防衛局では、地方自治体や地域の皆様に対し、防衛省の各種施策などについてご理解を深めていただき、防衛省・自衛隊と地方自治体等と緊密に連携していくため、管轄地域である富山県、石川県、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県に所在する自衛隊地方協力本部や各自衛隊の部隊とともに、管内の地方自治体や公安委員会に防衛白書の説明を行っています。

令和5年版防衛白書は、「国家安全保障戦略」、「国家防衛戦略」、「防衛力整備計画」(以下「三文書」と言う。)策定後、初めて刊行される白書であり、三文書策定の経緯や概要を記述しています。また、わが国周辺国の軍事動向など、わが国を取り巻く安全保障環境や、防衛省・自衛隊の取組、米国を始めとする各国との協力などについて、まとめられております。

三文書策定の経緯を説明する一環として、より長期的な視点から解説するために、これまでの約10年間の変化に焦点を当て、三文書の策定に至る背景や、今後の防衛力抜本的強化の方向性について、解説されております。

国の防衛の取組は、国民の皆様のご理解とご協力を得ることに加え、国際社会に対する高い透明性をもって進めていくことが最も重要です。

防衛白書は、こうした取組において極めて重要な役割を担ってまいりましたので、一人でも多くの方々に読まれ、防衛省・自衛隊の取組に対するご理解の一助になることを切に願っています。



■ 防衛白書はこちらでご覧になれます。



三日月 大造 滋賀県知事への説明



西脇 隆俊 京都府知事への説明



吉村 洋文 大阪府知事への説明



山下 真 奈良県知事への説明



岸本 周平 和歌山県知事への説明





民生安定施設の助成「小松市消防本部 はしご付消防ポンプ自動車」

石川県小松市にて小松飛行場周辺消防施設設置助成事業として実施していた「はしご付消防ポンプ自動車」の配備が完了しました。

本事業は「航空自衛隊小松基地」の安定的使用と周辺地域との調和を図るための施策として「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」に基づき、実施した事業です。

今回の消防施設の整備で老朽化した現有車両を更新することにより、高層化する市内各施設への消火・救助活動が強化されることになります。



防衛省と地域社会との協力を象徴するエンブレム

写真提供：小松市

担当者の声

【小松市消防本部 消防総務課 寺田様】

小松市消防本部消防総務課寺田です。今回、新たに配備されたはしご車は、最新の技術が導入され、利便性が向上したことで、迅速な災害、救助活動が可能となり、災害現場での様々な活動をより効率的かつ安全に行うことが可能となりました。

私たち消防の役割は、市民の生命と財産を守ることであり、この新たなはしご車はその決意を物語っています。

今後、この最新鋭のはしご車と共に、小松市そして市民の皆様の未来を照らし、日々安全に、そして安心して生活できるよう日夜、訓練に励み、職員一同全力で業務に取り組んで参ります。

【当局担当者】

企画部周辺環境整備課の藤田です。

住民の方々の安全に寄与するはしご付消防ポンプ自動車の整備に従事させていただいたことを大変嬉しく思います。消防力の充実により、周辺地域の暮らしがより安心したものとなることを願っております。

周辺環境整備課は、地域住民の生活と防衛施設との調和を図るため、防衛施設周辺の地域住民の生活の安定や福祉の向上するよう各種施策に取り組んでまいります。



潜水艦「らいげい」命名・進水式

清々しい秋晴れのなか、令和5年10月17日（火）、川崎重工業株式会社神戸工場（神戸市中央区）において、令和2年度潜水艦の命名・進水式が行われました。

式典は、三宅伸吾防衛大臣政務官や川崎重工業株式会社の橋本康彦代表取締役社長ら約1400名の関係者が出席しました。



自衛艦命名式「らいげい」と命名



支綱を切断する三宅防衛大臣政務官

この潜水艦は、旧海軍及び海上自衛隊を通じて初の艦名となる「らいげい」と命名されました。「らいげい」は漢字で「雷鯨」と書き、力の象徴としての「雷」と海の王者たる「鯨」を組み合わせたものであり、防衛力の抜本的強化元年に産声を上げた潜水艦にふさわしい艦名であるといえます。

三宅防衛大臣政務官が支綱を切断すると、「らいげい」は、潜水艦や搭載装備品の製造に関係する多くの方々や招待された小学生らが歓声をあげて見守るなか、軽やかに神戸港へ向かって滑走、進水し、会場は、盛大、かつ、あたたかい拍手に包まれました。

「らいげい」は、「たいげい」型潜水艦の4番艦であり、全長84.0メートル、全幅9.1メートル、基準排水量3000トンです。力強い艦名にも通じますが、本艦から出力が大幅に向上した、新規開発の川崎12V25/31ディーゼル機関が搭載されています。これにより、リチウムイオン電池の充電時間の短縮が可能であり、任務行動の飛躍的な柔軟性向上を図っています。



神戸港に進水した「らいげい」



進水式後、調達部装備課検査官から報告を受ける茂籠局長

「らいげい」は、今後、ぎ装工事や、海上での各種試験等を経て、令和7年3月頃に海上自衛隊へ引き渡され、海上防衛の任務に就く予定となっています。これを達成するため、近畿中部防衛局調達部装備課の関係職員一同、契約の適正な履行と、海上自衛隊に求められる最高の品質を確保するために、監督及び検査業務に、日々邁進しています。

潜水艦「じんげい」建造状況（海上公試、きょ中検査）

令和元年度潜水艦「じんげい（迅鯨）」は、昨年10月12日（水）、三菱重工業株式会社神戸造船所（神戸市兵庫区）において、命名・進水式を実施の後、各種機器のぎ装工事を着々と行ってきました。令和5年7月からは海上公試を開始し、潜水艦としての性能を十分に発揮することを確認するための各種試験を実施しています。また、海上公試の間には、ドックに入りよの上、船体等に異状がないことを確認しています。

本年度末の海上自衛隊への引渡しに向け、建造造船所、各装置の製造メーカー、海上自衛隊及び近畿中部防衛局が一致協力して、より良い潜水艦の完成を目指しています。





「じんげい」艦上で、各種試験に携わる関係者



近畿中部防衛局検査官（右）による船体検査



局長感謝状贈呈

令和5年11月1日（水）、松原鉄工株式会社の松原秀一専務取締役役に茂籠勇人近畿中部防衛局長から感謝状を贈呈しました。

同社は、大正8年から現在に至るまで、永年にわたり造船所下請負として各種シリンダや大型旋盤での機械加工を主として行ってきた会社であり、潜水艦に対しては、運航に直接関わる舵などの足回りから武器装備品に至るまで、多品種少量の製造を一手に担ってきた会社です。特に潜水艦は毎年建造（建造所2社1年毎）され、かつ、すでに就役している潜水艦に対する定期交換部品の製造や整備などにより非常に厳しい生産管理が強いられている中での適正な生産管理と品質・性能が維持されているのは、『松原鉄工品質』に他なりません。

松原鉄工株式会社は潜水艦装備品の品質・性能の確保に長年貢献するとともに、防衛装備品の監督検査業務を円滑に遂行するために協力して頂き、潜水艦の安全な運用に長年寄与したことから、その極めて大なる功績を称えて、深く感謝の意を表したものです。



感謝状贈呈



松原鉄工（株）松原専務取締役と茂籠近畿中部防衛局長



松原鉄工株式会社ってどんな会社なの？

松原鉄工株式会社は、潜水艦建造造船所2社の下請負として、油圧式・水圧式・空気式シリンダの加工及び大型旋盤での機械加工を主として行っている製造会社です。

創業は大正8年であり、兵庫県明石市にある従業員数約30名の会社です。潜水艦に関わる仕事は昭和に入ってからで、現在は、潜水艦の運用に不可欠な舵や排気系の装置から武器装備品に至るまで、多くの製品を担っています。特に、潜水艦に特化した特殊部品の製造技術は高く、その品質・性能は依頼元である建造造船所からも高く評価されています。令和3年には、高い技術力が認められ、潜水艦の運航安全や、防衛生産・技術基盤の維持・強化に尽力した企業として、潜水艦隊司令官から表彰を受けました。海上防衛力の要であり、また、日々、性能向上していく潜水艦に求められる高い水準での生産技術に挑戦していく「松原鉄工株式会社」から目が離せません。



松原鉄工株式会社さん、これからもよろしくお願いします！





日伊共同訓練・日豪共同訓練

令和5年8月から9月にかけて、航空自衛隊小松基地（石川県小松市）において、日伊共同訓練及び日豪共同訓練がそれぞれ行われました。

日伊共同訓練は、令和5年8月4日（金）から同月10日（木）までの間（イタリア空軍機の展開及び撤収を含む）、航空自衛隊とイタリア空軍の間で行われました。今回の日伊共同訓練は、航空自衛隊の戦術技量の向上及び相互理解の促進を図るとともに、「自由で開かれたインド太平洋」の実現のための防衛協力の更なる深化を図ることを目的としています。わが国において初めてとなる航空自衛隊とイタリア空軍との戦闘機共同訓練でした。

8月4日（金）、第6航空団司令の石引空将補、飛行群司令の三宅1佐を始め航空自衛隊小松基地の隊員のほか、宮橋小松市長、新田小松市議会議長及び茂籠近畿中部防衛局長等が参加する中、出迎え行事が行われ、イタリア空軍の到着を歓迎しました。

訓練には、航空自衛隊第6航空団所属のF-15戦闘機等とイタリア空軍第6航空団及び第32航空団のF-35A戦闘機等が参加しました。

日豪共同訓練は、令和5年8月28日（月）から9月16日（土）までの間（オーストラリア空軍機の展開及び撤収を含む）、航空自衛隊とオーストラリア空軍の間で行われました。今回の日豪共同訓練は、航空自衛隊の戦術技量の向上及び相互理解の促進を図るとともに、日豪空軍種間の相互運用性を向上し、「自由で開かれたインド太平洋」の実現のための防衛協力の更なる深化を図ることを目的としています。航空自衛隊小松基地において初めてとなる航空自衛隊とオーストラリア空軍との戦闘機共同訓練でした。また、今回の日豪共同訓練に、日豪円滑化協定が日本で初めて適用されました。

8月30日（水）、小野田紀美防衛大臣政務官（当時）、駐日豪州大使館ロバーツ首席公使のほか、第6航空団司令の石引空将補、飛行群司令の三宅1佐を始め航空自衛隊小松基地の隊員や茂籠近畿中部防衛局長等が参加する中、出迎え行事が行われ、オーストラリア空軍の到着を歓迎しました。

訓練には、航空自衛隊第6航空団所属のF-15戦闘機等とオーストラリア空軍第81航空団のF-35A戦闘機等が参加しました。



航空自衛隊とイタリア空軍との記念写真



日豪共同訓練を視察する小野田政務官（当時）



日豪共同訓練を視察する小野田政務官（当時）

今回の日伊共同訓練及び日豪共同訓練に当たり、近畿中部防衛局では、小松基地内に現地連絡本部（本部長：池田企画部長）を設置し、本部長とイタリア・オーストラリア両空軍の指揮官との間で、地域の声を伝えるなどして意見交換するとともに、関係自治体への情報提供や基地周辺での騒音測定などの業務にあたりました。

航空自衛隊小松基地において日伊共同訓練及び日豪共同訓練が行われるのは初めてでしたが、関係自治体等のご理解とご協力もあり、無事に終えることができました。

当局としては、今後とも、こうした自衛隊の各種活動が円滑に実施できるよう、関係自治体及び住民の皆様のご理解とご協力を得るための取組みを続けてまいります。



伊軍指揮官と池田現地連絡本部長（中央）





近畿中部防衛局採用活動等

○国家公務員一般職試験（高卒・社会人程度）機関訪問

- ◆10/6-10/9,10/23-10/27、国家公務員一般職試験（高卒・社会人程度）の受験者を対象に機関訪問を行いました。

機関訪問では、業務説明と個別面談を行い、防衛省について理解を深めていただきました。



○公務研究セミナー

- ◆人事院主催の公務研究セミナーに防衛省（陸上自衛隊、海上自衛隊、近畿中部防衛局）も参加しています。どなたでも参加できますので、人事院近畿事務局 HP よりご予約の上、ご来場ください。

■人事院近畿事務局 HP はこちらからご覧になれます。



国家公務員に興味がある方を対象に、防衛省の使命や役割等について紹介するとともに、質疑応答も行いますので、説明会に参加することが初めてという方にもおすすめです。



10/21	@同志社大学	新町キャンパス
11/5	@立命館大学	衣笠キャンパス
12/3	@関西学院大学	西宮上ヶ原キャンパス
12/10	@関西大学	千里山キャンパス
12/16	@大阪公立大学	杉本キャンパス
12/20	@オンライン（技術系向け）	
2/20	@神戸大学	鶴甲第1キャンパス



○内定者関係

◆内定式

10/1 に国家公務員一般職試験（大卒程度）採用者の内定式を行いました。局長から内定書を受け取った後、局長との懇談で一人ひとり自己紹介等を行いました。

終始和やかな雰囲気、4月から共に働く同期との絆も深まりました。

◆内定者研修

12月に、内定者研修@舞鶴を行う予定です。陸上自衛隊、海上自衛隊、近畿中部防衛局の内定者が集まり、舞鶴地方総監部へ向かいます。

執務室等や艦船、官舎を見学し、実際の職場の雰囲気を体験します。そして、お昼ご飯には待ちに待った海自カレーを食べます。

1月にも内定者研修として、陸上自衛隊中部方面隊音楽まつりに参加し、圧巻の自衛隊のパフォーマンスを見学します。



○お知らせ

- ◆2023年6月より、近畿中部防衛局公式 X(旧 Twitter) を始めています！採用情報や、イベント情報など発信しておりますので、ぜひご覧ください。QRコードは裏面左下に掲載しています。



近畿中部防衛局では、採用説明会の依頼も受け付けております。進路ガイダンスや就職説明会においてなど、防衛省の仕事内容・魅力について話す職員を派遣します。ぜひTEL06-6945-4952 までご連絡ください！





F M放送「防衛問答近中でござる」

近畿中部防衛局では、防衛省・自衛隊の各種施策について、地方公共団体及び地域住民の皆様から幅広い理解と協力を得ることを目的とした地方協力確保事務の一環として、平成21年4月から和歌山県有田郡湯浅町にあるコミュニティFM局「FMマザーシップ」(坂口 緑 代表取締役社長)のご協力により、防衛政策や自衛隊・米軍の活動等について分かりやすく伝えるラジオ番組「防衛問答近中でござる」を放送しています。(毎週土曜日午後3時から午後4時)

これまで、近畿中部防衛局の業務の紹介とともに、防衛白書のポイント解説や当局が開催した防衛セミナー、日米交流音楽会の様子など紹介しています。

今後も、当番組を通して防衛政策など、様々な話題を幅広く分かりやすく紹介していく予定です。

※収録番組は当局ホームページにて順次公開しています。



コミュニティFM局 FMマザーシップ



収録の風景：坂口FM マザーシップ社長 (中央)



小型無人機等飛行禁止法について (お知らせ)

対象防衛関係施設周辺地域の飛行禁止

重要施設の周辺地域の上空における小型無人機等の飛行の禁止に関する法律(平成28年法律第9号)第10条第1項の規定により、防衛大臣が指定する対象防衛関係施設の敷地又は区域及びその周囲おおむね300メートルの地域の上空においては小型無人機等の飛行が禁止されています。



ただし、以下の表に掲げる場所においては、それぞれ以下に掲げる飛行を行うことが可能です。

場所	可能な飛行
対象防衛関係施設の敷地又は区域の上空	・対象防衛関係施設の管理者の同意を得た者が行う小型無人機等の飛行
対象防衛関係施設の敷地又は区域の周囲おおむね300メートルの地域の上空	・対象防衛関係施設の管理者の同意を得た者が行う小型無人機等の飛行 ・土地の所有者若しくは占有者(正当な権利を有する者に限る。)又はその同意を得た者が行う小型無人機等の飛行 ・国又は地方公共団体の業務を実施するために行う小型無人機等の飛行

対象防衛関係施設周辺地域の上空において小型無人機等の飛行を行う方は、該当する施設の管理者まで同意に係る申請を行ってください。

対象防衛施設及び手続の詳細は、防衛省ホームページを参照ください。

(防衛省ホームページ)

<https://www.mod.go.jp/j/presiding/law/drone/index.html>



近畿中部防衛局からの発信



ホームページ



公式 X (旧 Twitter)



広報誌 バックナンバー

■ ご意見・ご感想等はこちらまで

〒540-0008

大阪市中央区大手前4丁目1-67

近畿中部防衛局 広報編集委員会 (報道官気付)

TEL : 06-6945-4953

e-mail : goiken-kc@ext.kinchu.rdb.mod.go.jp

KINKI CHUBU

2023年 通算 086号
令和5年 12月発行
近畿中部防衛局
広報編集委員会

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

